シンナガサキみーてぃんぐ開催レポート

ｉｎ日見小学校区



令和８年９月１９日（土）自治会をはじめとした地域の皆さまに加え、中学生・大学生の若い世代の皆さんにもお集まりいただき、日見小学校区の「シンナガサキみーてぃんぐ」を開催しました。

自己紹介では、日見地区ロードレースの状況、日見まつりのこと、また暮らしていく中で感じていること等をお話いただきました。



いただいた主なご意見

①市営住宅の有効活用

以前、市営アパートの部屋を２つ貸して、そこに大学生を住ませ、自治会と連携を取っていこうという実験的な取り組みがありましたが、どんな成果が出て、今後どのように活かしていくお考えですか。

市の考え方 回答

「住みよかプロジェクト」の事業の一環として、大学と連携した社会実験を実施しました。この事業は、長崎総合科学大学と連携して、市営住宅の空き室を活用しながら、「若い世代に選ばれる住まい」「地域と若者が関わることでの地域コミュニティの活性化の可能性」について検証を行ったものです。プロジェクト終了後、実際に居住した学生から、空き室をコミュニティスペースに改装し、若年層や自治会に参加できていない人々の交流の場として活用してはどうか等のアイデアが寄せられました。これらのアイデアについては、当該団地に限らず、今後高齢化する公営住宅の自治会運営等において非常に有用なものと思われます。現在、市営住宅は集約の方針を取っていますが、今後、地域との交流など、提案内容の実現可能性について検討していきたいと思います。

②高齢者交通費助成

例えば、高齢の方（85歳以上）限定に絞って、タクシー券等を継続してもらえると、本当に困っている時に利用できると思います。

市の考え方 回答

高齢者交通費助成事業は、公共交通機関を利用して外出することにより、高齢者の社会参加の機会を増やし、生きがいを高め、介護予防につなげることを目的として実施してきました。介護予防をより効果的かつ持続可能なものとするため、本事業は令和10年度末をもって終了する方針としており、現在、新たな介護予防事業の制度設計を進めているところです。

③日見サポ（総合科学大学の学生で組織されている地域活動グループ）の活動

日見サポは今年の2月末に組織を立ち上げ、現在24名が活動しています。主に年配の方を対象にしたスマホ教室を実施しています。日見地区は他の地区と比べ若者が多いので、その魅力を十分に発揮し、今後は地域と関りやすく、継続的につながっていけるような組織にしたいと思っています。

市の考え方 回 答	各地域とも高齢化が進み、自治会等の担い手不足が問題になっています。若い世代の力がこれからの自治会、地域、組織の在り方のヒントになると思います。地域コミュニティの組織も活用しながら若い世代と一緒にやっていくことで、担い手不足の問題も解消できると思います。そのような意味でも、日見サポの皆さんの活動は本当に素晴らしいものであり、皆さんの活動により、幅広い世代間の交流に繋がると思います。

④日見中学校の統合

日見中学校が東長崎中学校に統合されるという話題を新聞で見ました。日見から東長崎中学校に行くのは遠く、もっと日見に住む人が減ってしまい寂しくなります。また、日見中学校は地域の方と関わることが多く、ふるさとを愛しているのは、日見中学校があるからではないかなと思っています。統合には反対です。

市の考え方 回 答	少子化等の影響で、長崎市の児童生徒数はピーク時の約５分の１に減少しておりますが、小中学校の数は大きく変わらず、多くの学校で小規模化が進んでおります。そこで平成２９年４月に「学校規模の適正化と適正配置にかかる実施計画（案）」を作成し、複式学級を有する過小規模校や老朽化した小規模校の統合を優先して進めています。 この中では、日見中を東長崎中へ統合する方向性を示しておりますが、統合すると望ましい学校規模を超えるため、現時点では、生徒数の推移を注視しております。なお、住民基本台帳による推計で、日見中は令和８年度の生徒数１３４人（５学級）から、令和１８年度に４７人（３学級）へと急減する見込みで、近い将来、統合の協議を始める必要があると考えております。 子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むには、多様な集団活動ができる一定の規模が必要であると考えておりますので、保護者や地域の皆さまのご意見を伺いながら丁寧に取り組んでまいります。

そのほか、「道路幅の拡張について」「高齢者の買い物支援」等の数多くのご意見をいただきました。いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。





鈴木市長のひと言

前回から２年以上経ちましたが、改めて解決できていない課題も多いことがわかりました。また、同時に、日見地区は若い世代の皆さんが様々な活動を通して頑張ってくれているというのがわかり、とても頼もしく感じました。長崎市としても、日見地区の魅力である若者の力と幅広い世代の交流を活かし、皆さんと一緒になってまちづくりに取り組んでいきます。



参加者からの感想

色んな世代の方と意見交換できてよかった。
日見の良いところや課題を知ることができた。

参加者は「日見」が好きなんだと感じました。
中学生でも日見の役に立てることを知ることができた。



発行：令和８年11月　長崎市企画政策部広報広聴課